

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年8月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690200227号
法人名	株式会社シモンズ
事業所名	介護サービスセンター水引 グループホーム鹿野苑
所在地	鹿児島県薩摩川内市網津町4915番地1 (電話) 0996-31-2882
自己評価作成日	平成26年8月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ① 利用者生活歴を尊重し、その人らしい生活ができる介護を目指している。
- ② 基本理念を周知徹底する為に、朝夕の申し送りの際に理念を唱和を行っている。
- ③ 職員個々の考え方・意見を尊重し、入居者一人一人に対しての介護の在り方を話し合いながら構築している。
- ④ 苑外に出かけ、社会との交流の場を設けるため、外食・ドライブ・お寺参り・買い物等を毎月実施している。
- ⑤ 月に2~3回のおやつ作りや毎週木曜日開催の生け花教室などを中心に生活リハ・脳活性トレーニングを毎日取り組んでいる。
- ⑥ 花見・夏祭り・芋ほり・焼き芋・餅つきなど季節に応じた行事を積極的に行っている。
- ⑦ マンツーマンの個別ケア実施に取り組んでいる。
- ⑧ 地域の文化祭への生花の出品や散歩途中で神社の掃除をする等、入居者の地域参加を積極的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

薩摩川内市の国道3号から一步入り静かな田園風景の中にグループホーム鹿野苑は建てられており、周りには神社や集会所、大きな川が流れ、ホームの横を肥薩オレンジ鉄道が走る、のどかな光景が広がっている。

法人は、居宅介護支援事業所も運営しており、認知症対応型デイサービスも併設した環境であり利用者間の交流もある。

経営理念のなかにある「自分や、家族が受けたい介護を目指します」の文言のとおり、自分の家族として考える職員の方針は徹底しており、また職員も気づきやアイデアを楽しみながらケアのなかに活かす姿勢がうかがえる。
ホームには利用者を和ますアニマルセラピーや、自分の口で食べる食の楽しみ、出来る限りオムツをしないで暮らす生活など、生きる喜びや自信回復につながるようにチームとして取り組んでいる。
看護師による健康管理や、緊急医療連携も取れており、利用者が自由でのびのびとその人らしく生活できるように支援しているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り前に理念の唱和を行い、理念の共有化及び実践に繋がっている。	事業所の根幹である理念は朝の申し送り時の唱和や毎月のユニット会議で「自分のことや家族に例える考え」を重視し、基本に返ることで振り返り、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや文化祭・アクアライブ等の地域が主催する行事に積極的に参加し、地域の清掃活動等にも職員が参加している。散歩中等で地域住民と挨拶を交わす等、交流を心掛けている。	管理者は地域の住民が集う場所として事業所の中に、誰でも通えるコミュニティサロンを提供し、利用者との交流を図っている。利用者は近場の神社の清掃作業に参加し、地域の行事にも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域でのサロンに参加する取り組みを行い、地域へ報告することで、認知症や施設への理解をもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に市役所職員が参加し、利用者の現状や活動状況を報告し、助言や指導等を頂きながら、サービス向上に努めている。また、今年度より消防署職員にも参加してもらっている。	今年から消防署員を交えての運営推進会議は行政を始め、公民館長や地域住民、家族代表などの参加で行われ、利用者の現状報告や事業所の取組みが話し合いされ、サービスに活かしている。ヒヤリハットの詳細にわたる記載と報告もされ、そこで出された意見は家族にも宛だよりや写真と一緒に送られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所職員が参加し、利用者の現状や活動状況を報告し、助言や指導等を頂きながら、サービス向上に努めている。	定期的に介護保険課に出向き、事業所の考え方や実態を担当者によく知ってもらい情報の共有を図っている。また地域ぐるみの活動も視野にいれ協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・人権擁護委員会を毎月開き、職員会議等で委員会報告を毎月行い、勉強会を定期的に行うことにより、身体拘束の理解を深め、身体拘束ををしないケアに努めている。	管理者及び職員は定期的な身体拘束委員会を開き禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、疑問点は話し合う機会を設けている。職員自身が身体的拘束により利用者が身体的、肉体的にうける苦痛を理解し拘束のない実践に努めている。重要事項説明書にも明記され、玄関や非常口も施錠せず自由な暮らしの支援である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・人権擁護委員会を毎月開き、職員会議等で委員会報告を毎月行い、勉強会を定期的に行うことにより、虐待への理解を深め、虐待のないケアに心がけ、虐待を見逃さない様に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束・人権擁護委員会を毎月開き、職員会議等で委員会報告を毎月行い、勉強会を定期的に行うことにより、権利擁護への理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	質問を受けながら1つ1つ説明を行うなど、重要事項・契約書については十分な説明を行い、理解・納得していただいた上で同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①苑内にご意見箱を設置している。②担当者会議を行い、意見を集約し、ケアに反映している。③面会時に職員が家族に意見を聞き、報告している。④年1回家族会を開催し、苑で行っていることを報告し、家族より意見や要望を聞いている。⑤3か月毎の新聞を発行だけでなく、毎月写真を家族に送付している。	面会時や事業所のイベント、年一回の家族会などで、家族からの意見や要望を言い出しやすい環境づくりに努め、利用者本人も意見や思いを伝える機会を作っている。職員は担当者が決められ、2ユニットの家族に対応できるように利用者の情報の共有と、家族からの意見などをサービスに反映させていく姿勢が明確である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①ユニット会議・職員会議を通して職員の意見・提案を聞き、反映している。②代表者は日々の申し送りで、改善・提案に耳を傾けるように心がけている。	職員からのアイデアや意見はすべて受入れ、まず実践し、それから一緒に話し合い調整していく体制である。また事業所は精神的に不安な職員に対しても一緒に病を受入れ、共に歩んでいく配慮がある。職員は各委員会の担当が決められ、責任あるサービスの取組みがなされ、管理者は職員の育成にも力を入れ質の確保につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①代表者は、定期的に面談を行い、職員一人一人の実績・努力を把握し、ボトムアップで職員がやりたいことを行えるように、現場に任せている。②介護職員処遇改善交付金を一律支給している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>①研修希望を取り、研修を受けることを奨励している。②法人内でも定期的に勉強会を実施している。③教育委員会を中心として、段階的スキルアップに取り組んでいる。④研修報告会の開催等を通じて、知識の共有化に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>①年に2回地域密着型サービス事業所の会合に参加し、連携を図っている。②グループホーム協会に入会しており、勉強会等に職員を参加させている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受け持ち制を採用し、入所時に苑のアセスメントシートを使い、できる事及び排泄パターン等10日間程度チェックを行うことで把握を行い、苑での生活適応できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に苑でどういう生活をして欲しいか要望を聞き、サービスに取り入れ、面会がある度に状況説明を行い、家族から新たな要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最低1ヶ月は様子を見、苑での生活の経過を観察し、認知症外来等への受診を行いながら、共同生活の有無を見極める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①苑の方針である「自分や家族が受けたい介護」に基づくケアを提供している。②家事活動を一緒にして頂いている。初めは「出来ない」と言われることもあるが、出来る事を探し、少しずつして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①家族・本人の言う事を取組、早めに対応している。②入居者の状態や状況を面会時に報告し、ケアプラン作成時にも家族の意向等を取り入れる等、介護側の一方的な関わりにならないように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①個別ケア等の活動を通して、馴染みの場所（街・買い物・家）に出かけたり、ドライブを通して馴染みと途切れないようにしている。②家族・親戚・近所の方・友人の面会が多くある。	利用者の行きたい場所や思いを引き出し、個別ケアで願いを叶えている。屋内では趣味の華道、書道、などで楽しみ、また家族会では利用者が旅行の要望もあり、現在検討中である。馴染みの場所への買物や墓参りなど本人がこれまで大切にしてきた関係が途切れない支援となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①体操やレクリエーション、外出等集団での活動を大切にし、入居者が孤立しないよう、入居者同士が関わりあえるようにしている。②関係がうまくいくよう、職員が誘導・声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①退所後も家族との関係性を大切にしている。②契約終了後も、再入所に繋がったケースもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①定期的にユニット会議を開き、問題点や暮らし方の状況を話し合い、改善に努めている。②個別ケアの中で行きたい所・食べたい物等の意見を聞き、ドライブや外食等へ反映している。③困難な場合は、現状維持を目的に実施している。	日々のかかわりの中で声を掛け、言葉や表情で意向の把握に努めている。思いは個別ケアのなかでも活かされ、身体的に問題が無い限り本人本位の支援であり、車椅子の利用者にも対応できている。運営者は家族に負担をかけず事業所で出来ることは出来るだけ取りくむ姿勢である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①アセスメントやフェイスシートを活用している。②入所相談時に家族・CMから情報を収集している。③家族の面会時等にも情報を聞き、共有している。④利用者からも日頃から聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①焦点情報表を使い、毎月できた事への喜び、できない事へのチェックを行っている。②できる事の発見に努め、小さな動作でも発見した場合は、都度記載を行い、申し送りで伝達し、実施してもらっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①毎月担当者がアセスメントを行い、状態やニーズを把握している。②焦点情報表を使用し、全員でニーズを把握している。③ユニット会議で、利用者に必要なことや家族の意見等を話し合い、日々のケアに反映している。④家族等の面会時に質問や意見を聞くようにしている。	利用者の視点に立ったケアと課題について良く話し合い、まとめられた詳細な介護計画である。また酒やたばこなどの嗜好調査や個別ケアのなかでの取り組み、家族支援も盛り込んでいる。その人らしく暮らし続けるためのアイデアと意見を反映し定期的な見直しは勿論本人、家族の要望が変化した場合にも見直しがなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①経過記録、水分・排泄チェック表、バイタルサイン、食事量等を毎日記録し、朝夕の申し送りで利用者の状態を周知している。②気付いた点・問題点を改善している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①家族・利用者のニーズに対していつでも対応できるようにしている。②担当、職員全体で日々の生活におけるニーズ等を見つけ、共有することで、今必要なサービスを行い、個別ケア等への反映を行っている。		
29		○地域資源との協働 <small>ハピコソの春の力を生かしている地域員等を</small> 把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①苑前の川辺の散歩等への利用。②毎月15日にお寺に行き、説法を聞いている。③近くの保育園から行事に参加してもらっている。④地域や近くの病院の行事へ参加している。⑤苑近くの枚聞神社へ行き、お参りが		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①入所前のかかりつけ医を受診し、看護師がバイタルや日常情報を健康情報提供書に記入し、主治医に指示をもらっている。②受診は看護師が行い、主治医との連携を図っている。	入所前からの本人、家族の希望するかかりつけ医であり、往診を希望し受診している利用者もいる。利用者の日常の健康状態を記した独自の書式を基に主治医との連携を図り適切な医療を受けられるように支援している。認知症などの専門医や協力医療機関とも連携が取れ緊急時に対応できる体制である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全体の申し送りに加え、10時・16時の各ユニットで申し送りの時間を設けることで、常に情報提供を行っており、適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	①入院中、定期的に面会を行い、本人の状態を確認している。又、病棟の看護師・ソーシャルワーカーとも連携を図っている。②入所者の長期入院の悪影響を理解し、病院関係者も、できるだけ早く退院できるように努力してくれている。③事前の看護サマリー提供、電話等での助協報告をおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①入所時に重度化や終末期に向けた方針も説明を行い、理解を得ている。②地域への説明は、運営推進会議時に説明を行っている。③職員会議等を利用して勉強会の実施し、看取りを行った際、職員間でカンファレンスを設け、今後のケア向上に努めている。家族とも定期的に話し合い、必要に応じて医師にも参加してもらい、方向性を決めている。	重度化や終末期のあり方について、入所時に、事業所でできる最大限の支援を説明し文章化している。事業所は看取りの経験もあり、勉強会を開き終末期に向けた方針と情報の共有を図りチームとして取り組んでいる。家族の思いは常に揺れ動くので、一度方針を決めても状況変化に応じた繰り返しの話し合いがなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	①マニュアルを完備し、急変や事故発生に備えている。剥離や転倒などが発生しても対応ができています。②職員会議等を利用し、勉強会を行っている。又、年1回看護師と1対1で実践研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>緊急連絡網・マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を行っている。また、小組合の協力を依頼している。</p>	<p>避難訓練は年2回行われており緊急連絡網には近隣の方も登録されている。台風や水害時は避難場所の公民館まで腰にロープを巻きつけ移動することになっている。農繁期は地域住民の協力には限界があるため消防署も近いが小組合の協力もお願いし、事業所内の見学も検討している。裏庭には貯水槽や米の倉庫もあり、災害に備えた対策が取られスプリンクラーの設置、備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①入居者の生活歴や背景を理解し、その人らしさを尊重するように心掛けている。②各利用者に適切な声掛け応答を行っている。③生活動作では、入居者の能力に応じて、職員が最低限の介入を行い、過度の介入を行わないようにしている。	一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーを損ねない言葉かけを心掛けている。呼び名も本人の納得いく声かけであり、入所時に本人や家族から聞いた生活の背景や価値観を理解し対応している。また職員は馴れ合いにならないように、日常的な確認を勉強会で行い、利用者の情報は各ユニットの鍵の付いた書棚で管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①入居者一人ひとりに声掛け・誘導を行い、希望を聞き一緒に行く。②2月に1回個別ケアの時間を設け、希望等を叶える支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①入浴に対して拒否のある場合は、強制することなく時間を変えたり、翌日に変更するなどの配慮を行っている。②見たい番組を聞き、好きなテレビ番組を見てもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	①起床時・入眠前・外出時は、身嗜みの声掛けを行い、実施してもらい、できない方は職員と一緒にやっている。②化粧をされる方には、化粧をしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①食材の準備（皮むき・盛付け）や片づけを一緒に行っている。②一人一人の好みを聞き、メニューに取り入れている。③月に2～3回、職員と一緒におやつ作りに取り組んでいる。	調理は専門の職員を配属し利用者は下ごしらえや盛付けの手伝い配膳などをしたり、包丁を使い調理の手伝いをする利用者もいる。高齢の利用者が多いにも係わらず全員完食であり、口腔ケアでの口の中の刺激でミキサー食から固形食に改善された利用者もいる。利用者の個々の能力を引き出し食事を楽しむことのできる支援になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①個別にチェックを行っている。②摂取量が少ない時は、好みに合わせて飲食してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①口腔内チェックを実施している。②歯科往診を定期的実施し、口腔内の状態把握に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	①排泄チェック表で排泄パターンを把握し、時間誘導を行っている。リハビリパンツから布パンツへ移行できた入居者もいる。②日中は、トイレでの排泄で対応できている。	衛生面と臭い事故を考慮しポータブルトイレは使用せず、日中夜間ともにトイレ誘導を行っている。細かい排泄チェック表は水分補給、排便回数などから利用者がスムーズな排泄につながるように工夫され、便器のひじ掛けや背もたれにも配慮がなされている。入所後、布パンツに改善された利用者も多く職員は自立に向けた排泄支援に取り組んでいる	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①日に1,300mlを目安に補水していただいている。②自然排便を促すため、牛乳・冷水を活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	①入浴日には午前入浴・午後入浴を聞き、好きな方で入浴していただいている。②本人の希望で入浴日に変更があった場合も対応している。③拒否がある場合は、無理に入浴させることなく、時間や日を変更して対応している。	入浴は利用者が浴槽の中に浸かれるようにまた本人の希望があれば対応できる体制も考慮されている。個別ケアで温泉を利用する利用者もおり、個々に応じた柔軟な支援である。皮膚の乾燥を防ぐため、職員の意見により、入浴剤を変え、皮膚保護につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①本人の生活習慣に合わせた時間に休んでもらうようにしている。②居室で落ち着かない場合は、リビングで職員の見守りで休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①基本情報に内服の記載を行い、何を服薬しているのか、一人一人の把握している。②薬の説明書を活用し、薬への理解を深めている。③副作用に注意しなければならない薬が処方された場合は、看護師より注意点・観察点等の申し送りを行うようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴に合わせて外出・お寺詣り・生け花・畑仕事・編み物・家事等好きなことをしていただけるように誘導を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	①天気の良い日は外出を計画し、行っている。②家族に外出・外泊の協力を呼びかけ、定期的に外出・外泊を行っている入居者もいる。③月に1回個別ケアを行い、外食・買い物だけでなく、お墓詣り等希望される場所に行けるように支援している。	利用者の希望にそって定期的にデパートに行き食事をしたり、外食や花火大会、ライブ見学など外出する機会を頻繁に設けている。天気の良い日は中庭で車椅子の利用者も参加できるグラウンドゴルフや散歩を楽しんだり、希望があれば温泉や外泊もあり日常的な外出支援である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な入所者が多いため、家族の理解を得て苑にて預り金という形態でお金を管理している。毎月の買い物やドライブの途中等で好みの物品を購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	① 希望があれば、職員が電話を取次ぐ様にしている。② 手中見舞い・クリスマスカード・年賀状や写真等を家族に定期的に送付することで、繋がりを持てるように支援している。③ 携帯電話所持2名、定期的に家族と連絡をとっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花を置いたり、個人の生活歴を把握し、自由に過ごしていただいている。調理場もリビングより見渡せるようになっており、一緒に調理等を行っている。	広く明るいリビングは、大きなソファと利用者が活かした季節の花が置かれ、リビングから中庭やユニット間を自由に出入りができる。朝のラジオ体操や草取りを日課にしている利用者やキッチンで職員と調理の手伝いをする光景は、これまでの生活の継続を感じさせ、広い廊下には歩幅を少し広くとった印を歩くことで下肢の筋力アップにつなげたりしている。玄関やトイレも清潔で、居心地よく過せるように工夫された共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	花の水やり・家事・更衣等、自分で出来ることは自分でして頂き、見守りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	①テーブル・椅子・パイプハンガー・衣装ケース等の持ち込みがあり、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。②家族の写真や生け花等を飾っている。	広く明るい窓があり、利用者の使い慣れたものを持ち込み、季節の花も自由に活かされている。タンスの上には趣味の道具や、家族の写真が飾られ、好みの物を活かしながら居心地よく過ごせるような居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①各居室にネームボードを下げて誰の部屋かわかるようにしている。②カーテンの色を複数色設け、部屋の雰囲気をわかりやすくしている。③花の水やり、掃除や更衣等自分で出来る事は自分でしていただき、見守りを行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない